

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 子どもの気持ちを尊重していますか？

子育て支援センターや保育園の先生から聞いた話を紹介します。

### 〈その1〉

母親：「オムツを取り替える？」  
 子ども：「イヤだ、もっと遊びたい！」  
 母親：「じゃ、遊んでいいよ」

母親：「お家に帰る？」  
 子ども：「イヤだ、もっと遊びたい！」  
 母親：「じゃ、遊んでいいよ」

最近の若いママは、子どもに尋ねてから決める傾向があると聞いて驚きました。我が子の自己主張を全面的に受け入れることは、子どもに「決定権は我にあり」と誤解を招く恐れがあります。例えば、「おもちゃを貸して」は、貸すかどうかを決めるのは相手です。もし貸してもらえないときは、「遊びたかったね」と悔しい気持ちに共感しながら、別のおもちゃで遊ぶことを勧めて我慢できたことをほめます。子どもはいつも自分の思いが通るわけではないと分かると、相手に「これでいい？」と尋ねたり、相手の表情を窺ったりして折り合いを付けることを学びます。



「自分で」という気持ちは、新しいことにチャレンジする原動力となり、自立に向かう大事なプロセスです。しかし、オムツを交換する、家に帰ることを決めるのは、母親ではないでしょうか。決定権の線引きは、その人の育ってきた環境や価値観によって違いはありますが、子どもには「自分で決められることと、人が決めること」を明確に教える必要があります。子どもが言ったことを行動に移すことと、共感することは違います。

### 〈その2〉

「私の子育ての方針は、叱らずにほめることです。ダメと言わないことです。」と宣言するママたちが増えていきます。理由を尋ねると、「本やインターネットで、子どもはほめて育てなさい。」と書いてあるからだそうです。テーブルに上がっていても、友達を叩いても叱りません。逆にテーブルに上がったことや叩いたことを我が子の成長と考えます。ほめることは自分らしさを発揮し、意欲的に行動することにつながります。しかし、いつもほめられてばかりいると、実感がもてなくなります。もちろん、叱ることばかり続けていると、子どもは否定されたという思いが残り、心を閉ざしてしまいます。相手や自分を傷付けたり、物を壊したりしたときは、親は毅然とした態度でやってはいけないことを伝える必要があります。また、「～はダメ」と否定的な表現で終わると、子どもは何をしたら良いか混乱するので、「～しよう」と、してほしい行動を具体的に伝えましょう。



### 〈その3〉

1歳半健診で「言葉の遅れ」を指摘されてから、週1回言葉の訓練を受けている2歳半の子どもがいます。もっと訓練の回数を増やした方が良いといわれていますが、お母さんは仕事をしているため特別な時間のみの訓練です。しかし、園長先生や担任と話し合いをしたとき、「来年、年少クラスに入ることを機に休職して我が子と向き合う時間を作ります。」と、お母さんが話したそうです。我が子の発達特性を否認・逃避してきたお母さんが、前へ一歩を踏み出した瞬間でもあります。



その後、園では子どもの状態が落ち着いたそうです。保護者の気持ちの安定が、そのまま子どもに影響するのを感じました。